

深江小学校5年生が海の環境学習を始める

令和5年6月19日に深江ブループロジェクト活動組織の主催で、南島原市立深江小学校5年生が一年間を通じて海の環境学習会を行う「アマモすくすくプロジェクト」を立ち上げました。

第1回目は、午前中の部でアマモについて学習会を行いました。

まず初めに、長崎大学のダイビングサークル「ISANA」(いさな：クジラの古称)の3名の方が、長崎の海の様子や、ウニ駆除の活動していることを紹介しました。特に、海に潜ることは「楽しい」こと、綺麗な海があるといろいろな魚と出会うことを紹介されました。



(大学生による講義の様子)



(「ISANA」の活動について)

次に、深江ブループロジェクト活動組織の吉田代表から深江町の海の様子やカイソウ(海藻・海草)の違いを説明した後で、「海藻」と「海草」の違いの理解度を深めるクイズが実施されました。



(深江町の海岸の様子を説明する吉田代表) (カイソウクイズで手を挙げる子供たち)

【カイソウクイズ】

- ・ワカメは、『海藻』 ・昆布は、『海藻』 ・海苔は、『海藻』
- ・アマモは、『海藻・海草』どちらでしょう？

【答え 海草】

海中に生育する藻類で、根・茎・葉の区別がないものが『海藻』、種子植物で、根・茎・葉の区別ができるものが『海草』です。

ちなみに、食べておいしいものは『海藻』が多いですね。

最後に、水産多面的機能発揮活動サポート専門家の安藤さんから、アマモ場の再生と回復はSDGs（持続可能な開発目標）の中の1つ「14 海の豊かさを守ろう」になることを説明されました。安藤さんからは、「海を綺麗にすることは、地域に住んでいる人や漁業を営んでいる方だけでなく、多くの人に参加し、興味を持ってもらうことが大切です。このため、大学生や専門家、活動組織などが連携しそれぞれの立場で情報発信を行っています。また、子供たちと一緒に活動をすることで、地元の海に興味を持ってもらい、継続的に活動する環境を作っていく必要があります。深江の海にアマモを再生させると、二酸化炭素を吸収し酸素を発生させることや、アマモが増えることで、魚の産卵場所や生育場所が増え、それを食べるいろいろな生物も増えていきます。」と、今回の活動の重要性を説明されました。

質問コーナーでは、児童から、「二酸化炭素を吸収するアマモなどが増えて、二酸化炭素がゼロになると、酸素が発生しないから、人間や動物は生きていけなくなるのでは？」と、会場の大人も驚く質問が出ました。日ごろから、環境や地球温暖化について学習していることがわかります。



(アマモすくすくプロジェクトの連携について説明する安藤さん)

「深江ブループロジェクト活動組織」とは、南島原市内で7つ活動している組織の一つ。

水産庁の「水産多面的機能発揮対策事業」を活用し、海の環境・生態系保全活動や、各活動組織が利用する水域の監視活動、地域の子供たちへの教育・学習活動に取り組んでいます。

午後の部

午後からは深江の海岸でアマモから種を採る、実地活動を実施しました。今回は、時期が悪かったのか、アマモの種が入っているのが少なかったです。児童は、楽しくアマモがどのように生育しているのか確認していました。アマモの生育を確認した後は、深江の海の生態調査を行いました。

深江ブループロジェクト活動組織によりネットで保護された砂地の中には、大きなアサリがたくさん生育していましたが、ネットで保護されていない砂地は、他の生物に捕食されたのか、生息が確認されませんでした。



(海に入りアマモの種を調査する児童達)



(アマモの種が入っているものを確認)



(深江ブループロジェクト活動組織で採取したアマモの種)



(ネットで保護した場所を掘り調査する児童と活動会員)



(アサリの稚貝を見つける児童)



(たくさんのアサリを見つける児童)